

一般社団法人日本サング礁学会
2022/23 年度 代議員総会 議事録

1. 日時： 2022 年 11 月 10 日木曜日 17 時 00 分－18 時 45 分
2. 場所： Zoom によるオンライン開催
3. 出席役員： (理事) 山野 博哉, 木村 匡, 栗原 晴子, 中野 義勝, 波利井佐紀,
(監事) 野中 正法, 宮本 育昌

4. 議事の経過の要領及びその結果

(1) 議長及び議事録作成者の選出

互選により、議長に長田智史氏を、議事録作成者に藤井琢磨氏を選出した。

(2) 議決権総数の確認と議事の開始

出席代議員

議決権のある総代議員数 24 名

出席代議員数 12 名

委任状提出者数 9 名

議決権総数 21 名

以上のとおり、出席社員数が定足数（総代議員数の過半数）に至ったことから、議長は開会を宣言し、下記のとおり議事に入った。

(3) 第 1 号議案 2021/2022 年度事業報告（案）について

議長の求めに応じて、会長より総会資料に沿って重点課題の具体的取り組み：学会基盤安定化にむけたプラットフォーム機能の強化、大会運営の検討、管理業務体制の基盤強化及び本学会の魅力・サービスの充実に向けた学会誌の質向上への取り組みの継続、社会連携の強化、国際連携の方向性に関する検討について説明があった。続けて、事業報告が行われた。同議案に対する参加者からの質問はなく、野中監事より、10 月 24 日に那覇市の新里税理士事務所を訪れて行われた事業監査の結果、適正な執行が認められたことが報告された。議事資料には宮本監事の記名及び押印が間に合わず示されていないが、監査は問題なく行われていることの説明がなされた。

(4) 第 2 号議案 正味財産増減計画書（案）について

議長の求めに応じて、(久保田事務局長が会場準備で欠席のため) 山野会長によって代理での説明が議事資料に沿って行われた。会費収入は、学生会員の徴収費変更などによって額面に差額が生じているが実際の支払いに応じて今後年度間の差額実態が反映される予定であること、学会誌の発行に関する予算と支出の差額は、特別号の発行に関連するとのことなど、主に予算額

と実績、及び前年度と当年度間の差額が大きい項目について補足説明があった。同議案に関して参加者からの質問はなく、野中監事より、10月24日に行われた監査は通帳額面含めて無事終了していることが報告された。議事資料には宮本監事の記名及び押印が間に合わず示されていないが、監査は問題なく行われていることの説明がなされた。

(5) 第3号議案 日本サンゴ礁学会名誉会員の推薦について

議長の求めに応じて、山野会長から議事資料に沿って推薦理由が読み上げられた。Zoomの「リアクション」機能を用いて、その場で推薦者を含む代議員による採決が行われた。出席した代議員の過半数の賛同者が得られたため規則に従い議案が承認された。

(6) 第4号議案 2022/23年度事業計画(案)について

議長の求めに応じて、山野会長から議事資料に沿って事業計画(案)について説明がなされた。下記の項目について質疑応答及び補足説明がなされた後(下記以外の項目については質問及び補足は無し)、議長の呼びかけによってZoomのリアクションを用いて採決がなされた。ほぼ全員の代議員の挙手により審議事項が承認された。

4. 受託事業について

(長田) 受託事業の検討とは、現段階で何かあるのか?

(山野) 現段階で具体的な案はない。この場で何か意見があれば。

6. 功労賞に関して

山野会長から定期的な賞授与はないため随時募集、随時推薦を求める旨の補足説明がなされた。

7.-(2) サンゴ礁保全・調査安全に関する対策について

(安田) 安全基準など情報が公開される時期は?

(中野) 学会HPのリニューアルに合わせて、学会委員からの発信を計画している。

(安田) 現所属にて、調査安全基準の再検討の際に客観的な参考情報になるので、学会としての情報発信がなされていると助かる。

(中野) 委員会でも、その主旨で検討されており、学会としてオーソライズされた情報発信ができるように協議を重ねている。内容については早急に、メールベースでも協議し詰めていく旨を話し合っている。

(山野) 学会HPリニューアルを待たずとも、PDFのML配布などで早めに公開しても良いだろう。

(栗原) HPのリニューアルだが、大きく内容を変更するというより、セキュリティの改善を行う方針。なので、新たな情報はリニューアルを待たずに発信していくのが良い。

(樋口) HP リニューアル作業は現在、コピーサイトへの暫定移設を伴って進行しているため、直近で HP 上での情報変更を行うと HP リニューアル完成時に漏れる可能性があることに注意。

8. (2)第一回は 2022 年 10 月に行われた、との修正意見が山野会長からなされた (資料では 10 月未定との表記)。

(7) 第 5 号議案 2022/23 年度収支予算書 (案) について

議長の求めに応じ、山野会長から議事資料に沿って説明がなされた。参加者からの質問及び補足は無く、Zoom のリアクションを用いて採決がなされた。ほぼ全員の代議員の挙手により審議事項が承認されたことの宣言がなされた。

以上をもって、全審議事項が終了した旨の説明が議長よりなされた。その後、審議に関わらず学会及び大会運営に関する補足や質問事項など、意見交換の時間を設ける旨、議長から呼びかけがなされた結果、下記のと通りの議論、意見交換がなされた。

(8) 学会及び大会運営に関する意見交換

(樋口) 次回 APCRS でのブース出展についての運用は？

(山野) 広報主体で、学会誌関連の出版や国際連携員会と連動しつつ行って欲しい。

(樋口) 渡航費補助の学生のみをブースに座らせておくわけにはいかないため、他の会員にもブース運営に協力をお願いしたい。内容については広報主体で議論しつつ、理事会でも承認いただく。

(波利井) 学会誌もブースで広報をとのことだが、現状、印刷媒体がほとんどないが、どのような形で展示を行うか案はあるか？

(樋口) ここで承認をいただいたので、深見出版委員長らとも連携して、案をかためていきたい。

(木村) APCRS に関して補足情報の提供を。次回 (第 6 回) 開催地がまだ決まっていない。もし日本開催の希望があれば、是非提案を。通常であれば大会期間中にプレゼンして決めることになるので、事前準備が必要。ICRS の開催時期ズレにより、第 6 回 APCRS の開催時期を本来の 2026 年から 2027 年にずらすことになるかは未定。

(藤村) 選挙管理委員より。来年度もオンライン選挙があるが、そろそろ選挙委員長の変更も検討すべき。選挙の規約や手順などを整理し、選挙プロセスを単純化しなければ、次に引き継ぐのは難しいだろう。

(山野) 正式に策はないが、早急に対策をとるべきと認識している。

(木村) 導入したばかりのオンライン選挙のプロセスについても、改善すべき点は多々ある。

(藤村) 次期選挙は年度末頃には動き始める必要がある。

(山野・木村・栗原・藤村) 選挙プロセスや会則変更等選挙関連の規則は重要事項であるため、総会での承認を取る必要があり、至急始める必要がある。場合によっては臨時総会での採決が必要。選挙に関する会則に、少なからず煩雑化している箇所がある。例えば web 会議ができる時代に、西地区・東地区の区分けなどの制限を設ける必要があるのかどうか等。

(栗原) 先日メール共有した小中高生ポスター発表について、是非、講評をお願いしたい。メールに記された URL リンクから、あるいは栗原が会場に持参する紙媒体への記入でも可。

(山野) 代議員には、小中高生の講評と発表賞の採点をお願いする。

(山下・栗原) 小中高生への紙媒体による講評は、受付、実行委員あるいは栗原まで直接渡してほしい。

(山野) 保全委員の藤田会員、沖縄県のサンゴ移植ガイドライン改訂の進行についてはどうなっているか？

(藤田) 大会に沖縄県の関係者が来場するため、現地で相談する予定。県のガイドライン自体を改訂するわけではないようだが、学会としても協力しつつ取り組む予定。

(山野) 次年度以降の大会開催について。深見会員から 2 年後に宮崎大会の開催を承諾いただいている。大会期間中に是非、次年度大会の候補を探して検討したい。

(藤村) 本年度、大森保先生がご逝去された。サンゴ礁学会にて追悼特集号を発行できないか検討中。どこに、どのように提案をすれば良いか？

(波利井) 瀬底特集号を発行したが、同じく、提案書を作成のうえ編集委員会に提出していただければ検討のうえ発行可能。英文誌で希望か？

(藤村) 和英混合は可能？

(波利井) 学会誌が分かれているため、どちらか片方を検討いただければ。

(藤村) 大森信先生のご逝去に関連しての動きは？

(木村) 学会誌での特集号は予定されていないが、学会での集会などが検討されている。

(樋口) 次号以後、ニュースレターでの特集が組まれる予定。深見会員へ寄稿依頼予定。次号か？大会発表次第で記事要領が変わる可能性があるため、正式な依頼については、いましばらくお待ちを。同じく、大森保先生の特集もニュースレター特集を計画中。

(中村崇) 和文誌については、大会集会の特集という形でも行っているので、和文誌掲載希望であれば、先に言われた、学会での集会が行われるならその特集を検討するのも良いだろう。

(山野) 大会担当など、理事の人数を増やすことも可能。そのような希望などあるだろうか。

(木村) 是非、大会担当理事は新設すべき。7名体制に。

(山下) 大会担当理事を新設しても、多忙な会員が担うと元も子もない。会費に余裕があるならば、外注も行うべき。参加申し込みの整理など、多少ずつでも外注できると大幅に効率が上がるはず。

(木村) 山下会員の意見も、大会担当理事の新設も、どちらも行うべき。

(長田) 大会運営は会員サービスの要点でもあるため、十分な予算をあてるべき。検討中であつた受託事業など、学会の戦略にも関連してくるだろう。

(山野) どこに外注したら良いかも含めて、今大会の経験を踏まえて検討していきたい。

(波利井) 調査安全について改めて。学会ガイドラインの制定は非常に嬉しい一方、その制定について制約が生じるリスクもある。可能なら、どのような形を想定しているのか、もう少し説明いただければ。

(中野) 多くの会員の関心が集まっているのは嬉しいタイミングである一方、十分に検討した内容を発信するようにしたい。社会状況を鑑みつつ、研究や保全活動の現場からのフィードバックも吟味しつつ、委員会では議論を継続している。早いうちに説明できるようにしたい。

長田議長より、全議案及び意見交換が終了したことの宣言がなされた。

以上、

上記の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録作成者が署名捺印する。

2023年 11月 10日

一般社団法人 日本サンゴ礁学会 2022/23年度 代議員総会

議長・議事録作成者

議長

長田 智史

㊟

議事録作成者

藤井 琢磨

㊟